

さぶりめんと

関西労災病院広報誌 2010-April No.12

形成外科と美容外科(後編) 形成外科(浅田 裕司)

乳房再建



乳癌の治療で乳房を失うことは、女性に離婚やかなり親しい人との死別に近い心理的影響があるという調査結果もあります。左右のバランスを失うため着る服の選択が難しくなったりパッドを入れないといけないなどの不便もあります。ある程度の年齢の方では、温泉などに行ったときに人目が気になると言われます。乳房再建を行うことでそういったさまざまな不便や負担から開放されます。若い人に限らず乳房の再建は生活の質を向上させるものです。

乳房再建の方法にはさまざまな方法がありそれぞれの方法に長所もあれば短所もあります。

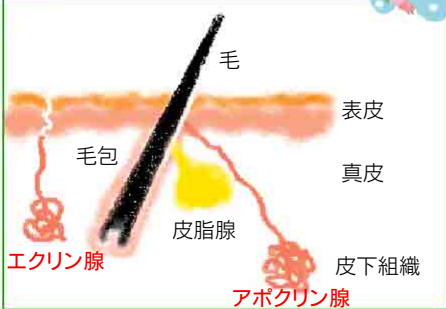
- ①腹部や背部の脂肪や筋肉を乳房部分に移植する皮弁法。(保険適応)
- ②人工乳腺(シリコンインプラント)を使う方法。
インプラントを使う方法は身体他の部分を犠牲にすることなく再建を行えるため、身体的負担が少なくすむという大きな利点があります。(残念ながら現在のところは保険適応外)

※一部の施設で行われている腹部などから脂肪を吸引して移植する方法は、問題が多く行うべきでない方法と考えていますので当院では行っていません。



インプラントによる再建は保険適応ではありませんが、身体負担が少ないというメリットを少しでも多くの人に享受してもらうため、当院では特別な費用負担は設定せず通常の3割負担を10割負担してもらうことで対応しております。なお、使用するインプラントはアメリカのFDA(日本での厚生労働省にあたります)で認可されたMENTOR社とINAMED社のインプラントを使用しています。ご自身の組織を移植する皮弁法による再建は、保険も適応されますし、より自然な形態を再建しやすくもあります。どちらの方法で行うかは、それぞれの方法の長所短所を考え決定して頂きます。

腋臭症



美容外科的な疾患として扱われることも多いですが、手術には保険が適応されます。さまざまな施設から多くの方法が報告されていますが、皮膚の裏側から臭いの元になるアポクリン汗腺を切除することは同じです。違いはそれに使用する器械の差程度で、それ以外の違いは基本的にはありません。どの方法でも、汗腺を切除するためには有毛部(腋毛のある範囲)の皮膚を剥離(はがす)する必要がありますので、手術後の腋の安静が手術後のトラブルをなくすために重要です。当院では、もっとも効果が高いとされる剪除法を行っています。通常行われる方法よりも小さめの2cm程度の切開によって行うようにしています。

No.11-No.12にわたって、「形成外科と美容外科」についてお話ししてきました。これら以外にも、現在ではさまざまな身体表面の変形や病気、形態の異常を治すことができるようになってきましたし、多くのものが保険適応となっています。お悩みのことがありましたら遠慮なくご相談ください。



基本方針

理念 ● ● 良質な医療を働く人々に、地域の人々に、そして世界の人々のために ● ●

- ・私たちは、働く人々の健康確保のための医療活動、即ち「勤労者医療」の中核的役割を担ってこれを推進します。
- ・私たちは、急性期医療機関として良質で安全・高度な医療の提供を行うとともに、地域の諸機関と連携して地域医療の充実を図り「地域に生き、社会に応える病院」としての発展を目指します。
- ・私たちは、患者様の権利を尊重し、医療の質の向上ならびに患者サービスの充実に励み、「信頼され、親しまれる病院」作りを心がけます。
- ・私たちは、「開かれた皆様の病院」として、ボランティアや有志の方々の病院運営への参加・協力を歓迎します。
- ・私たちは、病院使命の効果的な実現のために「働き甲斐のある職場」作りを行い、運営の効率化と経営の合理化を推進します。

